

第1学年 国語科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【国語科の学習の目標】

《学習のねらい》

- ① 言葉の力を支える基礎基本を身に付ける。
- ② 自分の考えを的確に伝える文章力を身に付ける。
- ③ 想像力をつけ、また、想像することの喜びを知る。
- ④ 筋道を立てて、物事を考える力をつける。
- ⑤ 他の人の意見を受け入れるだけでなく、自分自身で物事の良い点や悪い点をとらえ、その価値を判断できるような力を育成する。
- ⑥ 古典学習を通して、古典に親しみ、古典の面白さを味わうと共に、伝統を受け継ぐ力を養う。
- ⑦ 言葉によって自己を表現すると共に、相手の言葉を理解することで、コミュニケーション能力を高める。
- ⑧ 自分に必要な情報を選択し、信頼性を見極めながら、正しい情報を収集する力を高める。

2 学習方法

【常に授業に持ってくるもの】教科書・ファイル・国語便覧・漢字の反復練習・漢字練習帳

【授業に応じて持ってくるもの】ワーク・文法ワーク・硬筆ペン・練習帳・書初め用具・画仙紙

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

＜知識・技能＞

社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

＜思考・判断・表現＞

筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。

＜主体的に学習に取り組む態度＞

言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

【評価の方法】

各観点とも、国語科では、ワークシート・行動の観察・自己評価・相互評価・定期テスト・小テスト・学習ノート・ワーク・作品や発表などで評価します。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学期	- 自己紹介文を書こう ～オリエンテーション～ - 図書館オリエンテーション - 詩「ふしぎ」 - 随筆「聞くということ」 - 小説「桜蝶」 - お気に入りの一品を紹介しよう - 文法「言葉の単位」 - 説明文「自分の脳を知っていますか」 - 硬筆 - 詩「河童と蛙」 - 小説「オツベルと象」 - 資料から紹介文を書こう - 小説「ベンチ」 1学期の振り返り	- 国語の学習の進め方や持ち物等の確認。 - 図書館の使い方の確認 - 詩の朗読と情景の読解 - 自分の伝えたいことを考え、共有 - 登場人物の心情の読み取り、学校図書館の利用 - スピーチの方法 - 文章、段落、文、文節、単語という単位の理解 - 筆者の主張の読み取り - 楷書の特徴 - 意見文の書き方 - 聞き手のことを考えながらの発表 - 構成や展開、表現の工夫や効果についての読解 - ポップ作り - 振り返り	- 授業における約束事を確認することで今後の学習を円滑かつ効果的なものとする。 - 詩の表現技法について理解できるようにする。 - 文学作品の構成について理解し、表現の工夫に注目させる。 - 言葉のまとまりについて理解させる。 - 文章構成に注目させ、筆者の考えを読み取らせる。 - 登場人物の心情や、表現の工夫について読解させる。
2 学期	- 説明文「森には魔法つかいがある」 - 文法「文の成分」 - 根拠を明確にして意見文を書こう - 広告の情報を考える - 古典「箱に入った桃太郎」 - 古典「竹取物語」 - 古典「故事成語—中国の名言—」 - 写真を編集しよう - 案内文を書こう - 詩「河童と蛙」 - 小説「オツベルと象」 - 毛筆 - 小説「蜘蛛の糸」 - 随筆を書こう 2学期の振り返り	- 筆者の主張とその根拠に着目しての読解 - 主語、述語等の文の役割についての理解 - 説得力のある意見文の書き方 - 広告の工夫についての理解 - 川柳や昔話の朗読 - 歴史的仮名遣いに注意しての音読 - 漢文訓読のきまりの理解 - 資料の整理の仕方 - 案内文の書き方 - 群読 - オノマトペによる効果 - 手本を見ての視写 - 朗読、群読の仕方 - 随筆の書き方 - 振り返り	- 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解させる。 - 単語のもつ文法的な役割について学習させる。 - 本や資料から文章や図表を引用して、根拠を明確にさせ、説得力のある文章を書かせる。 - 歴史的背景等に注意して古典を読むことでその世界に親しみ、考えを広げたり深めたりして、人間・社会・自然などについて意見を持たせる。 - 訓読法を知り、きまりにしたがって訓読させる。 - 意見文や案内文の書き方について知り、工夫して書かせる。 - 行書に調和する仮名の書き方を習得させる。
3 学期	- 説明文「言葉がつなぐ世界遺産」 - 報告文を書こう - 文法「単語のいろいろ」 - 話し合い - 漫画で「物語」を表現する - 詩「四季の詩」 - 小説「少年の日の思い出」 3学期と1年間の振り返り	- 筆者のものの見方や考え方の読解 - 報告文の書き方 - 自立語、付属語、活用の有無などの分類の基準についての理解 - 話し合い活動 - 場面と描写を結び付けての内容の解釈 - 鑑賞文 - 登場人物の心情の変化の読解 - 振り返り	- 問いと答え、事実と意見の関係を捉えさせ、自分の考えをもたせる。 - 単語の性質について理解させ、実際に文を品詞に分類させる。 - グループでアイデアを出し、話題や方向に沿った話し合いをする。 - 実際の漫画を基に、漫画の表現方法の工夫について理解させ、言葉との関係について考えさせる。 - 場面の展開や人物の描写について注意させ、登場人物の心情の変化を捉えさせる。

第1学年 社会科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【社会科の学習の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会における平和で民主的な国家及び社会の形成に必要な資質・能力を身に付けることを目標にしています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・チャイム着席（授業道具を机の上に置く） ・忘れ物はしない。（授業道具、宿題）
- ・集団で学習していることを自覚しよう。（発言は挙手、私語厳禁）
- ・積極的に挙手をして意見を発表しよう。

【学習のしかた】

- ・板書したことや授業内でのメモは、プリントに上手にまとめる。その際に色ペンを使うなどし、わかりやすく工夫する。授業の最後に学習したことのまとめや、課題を考察し、その日の学習を振り返る。

【ファイルの使い方】

- ・地理と歴史の両分野で同じファイルを使います。 ・ファイルは定期的に点検します。

【授業に持ってくるもの】

地理……教科書、資料集、地図帳、ファイル
歴史……教科書、資料集、ファイル

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

日本の国土と歴史等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりすることができる。また、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

日本の国土と歴史等について、学習問題を追究し、解決しようとしている。また、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。

【評価の方法】

各観点とも、A、B、Cで評価します。その評価に基づき、5段階の評定を出します。社会科では、定期テスト、ワークシート、各授業の振り返りやまとめ、小テストなどで総合的に評価をします。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	- 世界と日本の姿 - 世界のさまざまな地域① - 歴史へのとびら - 古代までの日本	- 世界の姿 - 日本の姿 - 世界各地の人々の生活と環境 - 歴史をとらえる見方・考え方 - 世界の古代文明と宗教のおこり - 日本列島の誕生と大陸との交流	- 地球儀や世界地図を活用して、地球規模での位置関係を捉えるための知識と技能を身に付けさせる。 - さまざまな世界地図の適切な活用方法を身に付けさせる。 - 日本の国土の位置および領域の特色を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観させる。 - 標準時と時差の仕組みを踏まえて大観させ、地球上における日本と世界各地の位置関係を捉えさせる。 - 人々の生活と自然環境との関係に着目させて、さまざまな条件の下で工夫した生活を営んでいることを理解させるとともに、各地域で育まれた多様な文化を尊重する態度を身に付けさせる。 - 場所の違いに着目させて、人々の衣食住の特徴から生活の特色を捉え、自然及び社会的条件との関係について考察したことを表現させる。 - 中学校の歴史学習の導入として、歴史学習に対する大きな見通しを持たせる。 - 時代や年代の読み取り方を理解させ、歴史を学習する際の基礎を身に付けさせる。 - 世界の古代文明や宗教が生まれたこと、日本列島において人々の生活が始まり、国家が形成されていった過程のあらましを、東アジアの動きと関連付けて理解させる。 - 大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治を展開した古代までの日本の流れを大きく捉えさせる。
2 学 期	↓ 世界のさまざまな地域② ↓	- 古代国家の歩みと東アジア世界 - 世界の諸地域 - アジア州 - ヨーロッパ州 - アフリカ州 - 北アメリカ州 - 南アメリカ州 - オセアニア州	- 世界の古代文明や宗教が生まれたこと、日本列島において人々の生活が始まり、やがて国家が形成されていった過程のあらましを、東アジアの動きと関連付けて理解させる。 - 大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治を展開した古代までの日本の流れを大きく捉えさせる。 - 世界の諸地域に関する統計資料の分析、雨温図・主題図・写真の読み取りや比較・関連付けなどの地理的技能を身に付けさせる。 - 世界の諸地域で見られる地球的課題を追究していく過程において、その地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果をさまざまな手法で表現させる。
3 学 期	中世の日本	- 武士の政権と成立 - ユーラシアの動きと武士の政治の展開	- 武家政権が誕生し、武士の支配が次第に全国に広まり武家社会が発展していったという時代の流れを理解させる。 - 東アジア世界との交流が国内の政治や社会、文化に影響を及ぼしたことを理解させる。 - 畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたというこの時代の大きな変化の原因を、農業をはじめとする諸産業の発達などの視点から考えさせる。 - 武士や民衆の活力を背景にして生み出された新しい文化の特色を、代表的な事例を取り上げて捉えさせ、現在に結びつくものに関心を持たせる。

第1学年 数学科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【数学科の学習の目標】

- (1) 正の数と負の数について具体的な場面での活動を通して理解し、その四則計算ができるようにします。
- (2) 文字を用いて関係や法則を式に表現したり式の意味をよみとったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにします。
- (3) 方程式について理解し、一元一次方程式を用いることができるようにします。
- (4) 具体的な事象の中にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して比例、反比例の関係を見だし表現し考察する能力を伸ばします。
- (5) 基本的な図形を見通しをもって作図する能力を伸ばすとともに、平面図形についての理解を深めます。
- (6) 図形を観察、操作や実験を通して考察し、空間図形についての理解を深めます。また、図形の計量についての能力を伸ばします。
- (7) 問題を解決するために、ヒストグラムや相対度数などを用いて、資料の傾向を捉え説明ができるようにします。不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにします。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・問題解決のために、まず自分で考えをまとめるとともに、先生の説明や友達の発表をよく聞いて、数学の見方・考え方の視野を広げましょう。
- ・先生の発問には手を挙げて発表しましょう。また、分からないところは質問しましょう。

【学習のしかた】

- ・答えに至るまでの過程・考え方を大切にしましょう。
- ・間違ったところは、赤で正しい解き方に訂正しましょう。そして、どうして間違ったのかを振り返り、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。

【ノートの使い方】

- ・「めあて」「公式」「見方・考え方」「解き方」「まとめ」などの欄を設け、自分で工夫して、分かりやすく整理しましょう。

【授業に持ってくるもの】

- ・教科書 ・問題集 ・ファイル ・三角定規 ・コンパス 等

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

数学において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、技能を身に付けているかを評価します。

<思考・判断・表現>

数学の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。

<主体的に学習に取り組む態度>

知識及び技能を取得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている、また、その取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを評価します。

【評価の方法】

定期テスト、レポート、授業への取組、主体的な表現等を総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	・正の数・負の数	・正の数と負の数の四則計算 ・正の数と負の数の利用	・負の数を知り、正の数と負の数について加・減・乗・除ができる。
	・文字の式	・文字を使った式 ・文字式の計算	・文字の意味を理解し、文字式の意味を読み取る。文字を用いた式の乗法・除法の表し方を読み取る。 ・文字を使った一次式の簡単な加法、減法ができるようにする。実際の問題を解決できる。
2 学 期	・方程式	・一元一次方程式を解く ・一元一次方程式の利用 ・比例式	・等式の性質を理解し、式の変形により、一元一次方程式が解けるようにする。一元一次方程式を用いて具体的な問題が解決できる。
	・変化と対応	・関数 ・比例 ・反比例 ・比例と反比例の利用	・文字の式を通して比例、反比例を理解する。座標を用いてグラフを表わすことができる。比例・反比例の関係を表す式やグラフの特徴がわかる。比例・反比例を具体的な事象や場面との関わりの中で理解できる。
3 学 期	・平面図形	・直線と図形 ・移動と作図 ・円とおうぎ形	・線対称や点対称の意味を理解し、角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線、円周上の点における円の接線など、基本的な作図ができる。 ・平行移動、対称移動及び回転移動について理解できる。
	・空間図形	・立体と空間図形 ・立体の体積と表面積	・空間での直線や平面の位置関係、直線や平面図形の運動と空間図形。扇形の弧の長さや面積、角柱や錐体の表面積と体積を求めることができる。
3 学 期	・データの活用	・ヒストグラムと相対度数 ・データにもとづく確率	・目的に応じてデータを収集し、表やグラフに整理し、そのデータの分布の傾向を読み取ることができる。 ・不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。

第1学年 理科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【理科の学習の目標】

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせて、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指す。

2 学習方法

【授業の受け方】

- 火、薬品、刃物などの取り扱いに注意するものが多いので、安全に最大限注意を払い、集中した態度で観察・実験に取り組む。
- 観察・実験に取り組む時は、班でしっかり協力して準備を行い、責任をもって後片付けを行う。また、記録をしっかり取り、レポートは自分でよく考えてしっかり書く。
- 生命あるものに対しては尊厳の気持ちをもって、真剣な態度で実験・観察に取り組む。

【学習のしかた】

- 意欲的な姿勢で進んで実験・観察に取り組む。（百聞は一見に如かず）
- 記録をしっかり取る。（気付いたことは、どんどんメモする習慣をつけよう！）
- 自分の考えを進んで発表しようと心がける。自分の考えを自分のことばで書くことを心がける。他の人の意見・考えもしっかり聞く。
- 実験プリントは、授業後に理科係が集めて担当に先生に提出する。
- 板書はノートに工夫してまとめる。（板書以外でも、大切なことや参考になることはメモをとろう。）
- 教科書以外の本（理科の資料集等）も読み、理解を深めたり、詳しく調べたりする。
- よくわからないことについては、積極的に質問する。
- 授業で配付したプリントはファイルにとじ込み、整理整頓して、しっかりと管理する。
- 提出物の期限を必ず守る。

【授業に持ってくるもの】

< 教科書・ノート・ファイル・ワーク >

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。

<主体的に学習に取り組む態度>

自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

【評価の方法】

各観点とも、理科では、定期テスト・実験プリント・学習カード・授業ノート・ワークシート・技能テスト・小テスト・ワーク・行動の観察等で評価を行います。

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	生命 いろいろな生物と その共通点	1 章 植物の特徴と分類 2 章 動物の特徴と分類	・校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付けること。 ・いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点を基にして分類できることを理解するとともに、分類の仕方の基礎を身に付けること。 ・身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解すること。 ・身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点に基づいて動物が分類できることを見いだして理解すること。
2 学 期	物質 身のまわりの物質 エネルギー 光・音・力による現象	1 章 いろいろな物質と その性質 2 章 いろいろな気体と その性質 3 章 水溶液の性質 4 章 物質のすがたと その変化 1 章 光による現象 2 章 音による現象 3 章 力による現象	・身の回りの物質の性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱した時の変化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けること。 ・気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、期待の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身に付けること。 ・水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けて理解すること。 ・物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解すること。 ・物質は融点や沸点を境に状態が変化することを知るとともに、混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだして理解すること。 ・光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだして理解すること。 ・凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像の向きとの関係を見いだして理解すること。 ・音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだして理解すること。 ・物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだして理解するとともに、力の大きさと向きによって表されることを知ること。また、物体に働く2力についての実験を行い、力が釣り合うときの条件を見いだして理解すること。
3 学 期	地球 活きている大地	1 章 身近な大地 2 章 ゆれる大地 3 章 火をふく大地 4 章 語る大地	・身近な地形や地層、岩石などの観察を通して、土地の成り立ちや広がり、構成物などについて理解するとともに、観察器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けること。 ・地層の様子やその構成物などから地層の向き方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだして理解するとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できることを理解すること。 ・火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けて理解するとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けて理解すること。 ・地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気づくとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けて理解し、地震に伴う土地の変化の様子を理解すること。 ・自然がもたらす恵み及び火山災害と地震災害について調べ、これらを火山活動や地震発生の仕組みと関連付けて理解すること。

第1学年 音楽科の学習について

1. 授業を受けるにあたって

【音楽科の学習の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。

2. 学習方法

【授業の受け方】

- ・時間を守る（チャイム着席を守る）
- ・忘れ物をしない（音楽バッグに入れて持ってくる）
- ・音楽的な表現や活動ができる気持ちをもって授業に臨む。

【学習のしかた】

- ・説明や話をしっかり聞き、話の中で重要なことはメモを取るようにする。
- ・歌唱では歌う口形や姿勢に気をつけて伸びやかに表現する。
- ・鑑賞では曲や楽器に関心をもちながら、興味をもって鑑賞する。
- ・ワークやワークシートはしっかり記入する。

【授業に持ってくるもの】 音楽バッグに入れる。

- ・教科書2冊（音楽のおくりもの1・器楽）
- ・合唱曲集「コーラスフェスティバル」
- ・アルトリコーダー
- ・音楽ファイル

3. 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

- ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。
- ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。

<思考・判断・表現>

音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。

<主体的に学習に取り組む態度>

音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

【評価の方法】

- 知識・技能……………定期テスト・実技テストの技能にかかわる項目、ワークシートの記入内容、創作した作品など
- 思考・判断・表現……………定期テスト・実技テストの思考・判断・表現にかかわる項目、ワークシートの記入内容、創作した作品など
- 主体的に学習に取り組む態度……………学習カード、定期・実技テストの主体的に学習に取り組む態度にかかわる項目、ワークシートの記入内容など

4. 年間の学習内容（予定）

学期	題 材 名	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	・響きのある声でのびのびと歌おう	「校歌」等歌唱教材を通して、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う活動に親しむ。
	・アルトリコーダーの奏法を身に付け、演奏を楽しもう	アルトリコーダーの基本的な奏法について理解し、アルトリコーダーの演奏に親しむ。	アルトリコーダーの音色や響きと奏法の関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏し、アルトリコーダーに親しむ。
	・弦楽器の音色に親しみながら、曲想を感じ取ろう	曲想や音楽の構造との関わりを理解し、曲想の変化や弦楽器の表現に注目しながら鑑賞する。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠を自分なりに考え、曲想の変化や弦楽器の豊かな表現に親しむ。
	・日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう	音のつながり方の特徴について理解し、創意工夫して日本語の抑揚や言葉のリズムを生かした旋律をつくる。	音のつながり方の特徴について理解するとともに、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどを創意工夫し、日本語の抑揚や言葉のリズムを生かした旋律をつくる活動に親しむ。
	・曲想を感じ取り、形式を生かして表現を工夫しよう	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌い、我が国で長く親しまれている日本の歌に親しむ。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、我が国で長く歌い継がれている日本の歌に親しむ。
2 学 期	・混声合唱の響きを味わおう	曲想と音楽との構造や歌詞の内容とのかかわりについて理解し、創意工夫して合わせて歌う。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、混声合唱の豊かな響きに親しむ。
	音楽の特徴を捉えながら、聴き深めよう	音楽の特徴とその背景や文化との関わりについて理解し、演奏者の表現に親しむ。	曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解するとともに、生活や社会における音楽の役割について自分なりに考え、演奏者の豊かな表現に親しむ。
	右手の運指や低い音の奏法を身に付け、豊かに表現しよう	低い音の奏法を理解し、創意工夫してアルトリコーダーを演奏する。	低い音の豊かな音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏し、アルトリコーダーに親しむ。
	箏曲や尺八曲の多様な表現を鑑賞しよう	我が国の伝統音楽及びアジアの音楽の特徴と多様性を理解し、我が国の伝統音楽に親しむ。	我が国の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、我が国の伝統音楽に親しむ。

3 学 期	箏の音色を味わいながら、基本的な奏法を身に付けよう 我が国やアジア地域の多様で豊かな声による表現を鑑賞しよう 歌詞の表す心情を感じ取り、気持ちを込めて合唱しよう	箏の音色と奏法について理解し、表現を工夫して箏に親しむ。 我が国やアジア地域の音楽の特徴と多様性を理解し、声による様々な表現に親しむ。 曲にふさわしい歌唱表現を仲間と創意工夫して歌い、気持ちを込めて合唱する喜びを味わう。	箏の音色と奏法との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫して演奏し、我が国の伝統楽器である箏の音色や表現に親しむ。 我が国やアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、声による様々な表現に親しむ。 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を仲間と共に創意工夫して歌い、気持ちを込めて合唱する喜びを味わう。
-------------	---	---	---

第1学年 美術科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【美術科の学習の目標】

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・忘れ物をしない。
- ・作品の提出期限を守る。
- ・説明をきちんと聞く姿勢をもつ。
- ・不要な出歩き・私語はしない。
- ・道具の準備・片づけをしっかりと行う。

【学習のしかた】

- ・取り組む題材の概要を最初に聞く。
- ・制作の手順や計画を立てながら、アイデアを考える。
- ・作品制作を行い、完成させる。
- ・鑑賞会を行い、互いの良さを見つける。

【授業に持ってくるもの】

※教科書・資料集・絵の具・筆記用具・色鉛筆・ファイルはいつも用意。

指示があった場合持ってくるもの……タブレット、その他（授業で連絡します）

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができる。

<思考・判断・表現>

自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができる。

<主体的に学習に取り組む態度>

楽しく美術の活動に取り組み創作活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

【評価の方法】

知識・技能・・・文章による説明、作品制作、プリントなど

思考・判断・表現・・・デッサン、レポートの作成、作品制作など

主体的に学習に取り組む態度・・・レポートの記述、授業態度、教科担当における行動観察など

4 年間の学習内容

	単元名・教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	・美術ってなんだろう（オリエンテーション） ・見つめると見えてくるもの - ともだちパレット ・絵文字のデザイン ・日常の中の美術（美術館へ行く）	・学習のねらいや3年間の学習内容を理解させ、美術への興味や関心を高める。 ・鉛筆等、描画材料の使い方を理解し、意図に応じて表現する。 ・作品を鑑賞し、作者の意図や工夫について話し合う。 ・友達のイメージや感じ取った性格を元に構想を練り、主題を決めスケッチし、形と色彩の効果を利用し効果的に表現する。 ・レタリングと色彩について学習し、イメージを基に絵文字を構想する。 ・日常の中で接する様々なものに美術が関わっていることを知る。	・美術科と図画工作科の違いを理解し、これからの美術の学習活動に対する意欲を高める。 ・身近にあるものの形・色彩・明暗・質感などを観察し、その特徴や美しさから主題を生み出して構想する。 ・形や色彩の効果を理解し、自分の構想に合わせて顔の角度、しぐさ、表情、色など豊かに主題を生み出し表現する。 ・自分に合う形や色彩を探る中から形や色彩などが感情にもたらす効果や伝達する内容を全体のイメージで捉えることができる。 ・彫刻や絵画などの美術作品とそれらを収めた美術館という空間が感情にもたらす効果や、全体のイメージで捉えることができる。
2 学 期	・暮らしに息づく土の造形 ・広がる模様の世界 ・絵の中をよく見ると	・焼き物粘土の特性を学び、楽しく使える形を構想し制作する。 “ ・一つの形を組み合わせてデザインし色彩の知識を応用して生活に使える作品づくりをする。 ・作品を鑑賞し作者の意図や工夫について話し合う。	・用途や機能性を考えるとともに物を作り活用することで生活を楽しむ意識を持つ ・焼き物の材料、形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、土のぬくもりなどを全体のイメージで捉えることができる。 - 接す規則性や簡略化が生む美しさに気が付きデザインに生かすことができる。 ・構図や色彩に着目し、色や形がイメージに与える効果に気が付くことができる。
3 学 期	・じっくり見ると見えてくる ・祭りを彩る造形	・身の回りにあるものを観察して特徴を捉え、または何かに見立てて主題を生み出して構想を練る。 ・構成や材料、用具を工夫して立体で表現する。 ・お互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合う。 ・日本各地域やアジアの国に伝わる祭りの中の衣装や造形物を鑑賞し、それぞれの特徴や違い、材料などについて話し合う。	・形や色彩、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、何かに見立てたり、全体のイメージを捉えたりすることを理解する。 ・文化の違いや共通点について意見を述べ合い、考えを深める。

第1学年 保健体育科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【保健体育科の学習の目標】

体育・保健の見方・考え方を学び、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を鍛えます。また、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てることを目標としています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・授業開始のチャイムが鳴る前までに準備をし、指示された場所へ移動し整列します。
- ・体育着、もしくはジャージを着用します（ジャージ着用期間の目安は11月～3月まで）。
※それ以外の期間のジャージ着用は天候、気温等に配慮して指示を出します。
- ・校庭での実技は、運動靴で実施します（ハイカットや裏が平らな運動に適さない靴、スパイクは不可）。
- ・体育館での実技は、上履きで実施します（学校指定の上履き）。
- ・靴下は生徒手帳に記載されている物を着用します。
- ・保健分野の学習は、教室、視聴覚室、体育館で実施します。服装はその都度連絡があります。
- ・授業に必要なものを忘れず持ってきてきましょう。（授業用具、学習カード等）
- ・集団で学習していることを自覚しましょう。（発言は挙手、私語厳禁）
- ・積極的に挙手をして意見を発表しましょう。
- ・友達の意見はしっかり聞き、わからなかったところは、そのままにせず質問をしましょう。
- ・体育小屋や体育倉庫の用具を使うときには、丁寧に安全に扱きましょう。

【学習のしかた】

- ・授業で板書したことは学習カードに上手にまとめましょう。・・・色ペンの活用、余白の活用。
- ・テスト前は、授業プリントや教科書を繰り返し確認しましょう。

【ファイルの使い方】

- ・授業で配付したプリントは、必ずファイルにとじましょう。
- ・プリントは定期的に点検します。未記入や未提出がないようにして下さい。

【授業に持ってくるもの】

- ・体育の授業、保健の授業ともに教科書、ファイルはいつも持ってきます。
※その他必要なものは、授業の内容によって違います。教科係を通じて毎回連絡しますので、準備をしましょう。

【見学する場合】

- ・見学する場合は、生徒手帳に理由を記入、押印し先生に提出します。体育委員にも連絡します。
- ・登校した後、急な体調不良のため見学する場合は、先生に申し出ます。
- ・見学が長引く場合は、毎時間生徒手帳を出さなくてよいですが、先生に申し出ます。
- ・保健室に行き、授業に遅れる場合は体育委員、保健委員、学級委員のいずれかに連絡をします。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。

<思考・判断・表現>

運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

＜主体的に学習に取り組む態度＞

運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を養う。

【評価の方法】

授業態度、提出物、技能（記録の向上、スキルテスト）、学習カードの記述内容、レポートの内容、単元テストなどをもとに総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	・体づくり運動 ・陸上競技 ・武道 ・球技 ・水泳 ・保健	・体ほぐしの運動 ・体の動きを高める運動 ・短距離走、リレー ・剣道 ・バドミントン ・クロール ・平泳ぎ ・健康な生活と疾病の予防 ・心肺蘇生法	・仲間と手軽な運動を通して、心と体の関係に気付く。 ・ねらいに応じて、体の柔らかさ、動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができるようにする。 ・滑らかな動きで速く走ることやバトンの受け渡しでタイミングを合わせることができるようにする。 ・相手の動きに応じた基本動作から基本となる技を用いて打ったり受けたりするなどの攻防をする。 ・用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 ・手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができるようにする。 ・健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は主体の要因と環境に要因が関わり合っていることを理解する。 ・健康を保持増進するためには、年齢、生活環境等に応じた調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解する。 ・胸骨圧迫など実習を通して理解できるようにする。
2 学 期	・体づくり運動 ・器械運動 ・球技 ・陸上競技 ・陸上競技 ・球技 ・保健	・体ほぐしの運動 ・体の動きを高める運動 ・マット運動 ・ベースボール型ソフトボール ・ネット型バレーボール ・走り幅跳び ・走り高跳び ・長距離走 ・ゴール型ハンドボール ・心身の機能の発達と心の健康	・仲間と手軽な運動を通して、心と体の関係に気付く。 ・ねらいに応じて、体の柔らかさ、動きを持続する能力を高めるための運動を行うことができるようにする。 ・回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うことができるようにする。 ・基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をする。 ・ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 ・スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶようにする。 ・リズムカルな助走から力強く踏み切り、大きな動作で跳ぶようにする。 ・ペースを守り一定の距離を走ることができるようにする。 ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする。 ・思春期は、身体的には生殖に関わる機能が成熟し、精神的には自己形成の時期であることを理解する。
3 学 期	・ダンス ・球技 ・保健 ・体育理論	・創作ダンス ・ゴール型サッカー ・心身の機能の発達と心の健康 ・運動やスポーツの多様性	・多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化をつけて即興的に表現したり、変化のあるまとまりの表現をしたりして踊ることができるようにする。 ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をする。 ・健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は主体の要因と環境に要因が関わり合っていることを理解する。 ・心身の機能は生活経験などの影響を受けながら年齢とともに発達することを理解する。また、心の健康を保持する方法について理解しストレスへの対処ができるようにする。 ・運動やスポーツが多様であることについて理解できるようにする。

第1学年 技術・家庭科(技術分野)の学習について

1 授業を受けるにあたって

【技術・家庭科(技術分野)の学習の目標】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目標としています。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・チャイム着席：(授業道具を机の上に置く) 技術室では、身支度・準備を整え、チャイム着席をしましょう。
- ・授業に必要なものを忘れず持ってきてきましょう。
- ・集団で学習していることを自覚しましょう。(発言は挙手、私語厳禁)
- ・積極的に挙手をして意見を発表しましょう。
- ・工具や機械の使い方を守り、常に安全を心がけ作業しましょう。
- ・わからないところは、そのままにせず質問し、課題意識をもって授業に取り組みましょう。
- ・情報分野では、常にルールとマナーを守って情報機器が扱えるようにしましょう。

【学習のしかた】

- ・板書したことはプリントに上手にまとめましょう。(色ペンや余白の有効活用)
- ・テスト前は、授業プリントを繰り返しやり直してみましょう。
- ・授業で実習したことを活かし、家庭でものづくりや家具の修復をしてみましょう。

【授業ファイルの使い方】

- ・授業で配布したプリントは、必ずファイルに閉じましょう。
- ・授業中に先生が話したことは、余白を活用しまとめておきましょう。
- ・疑問に思ったこと、もっと調べてみたいことはメモしておきましょう。
- ・プリント類は定期的に点検します。未記入やプリントの不足がないようにしましょう。

【授業に持ってくるもの】

- ・教科書、ファイル、筆記用具はいつも用意しましょう。
- ・作業学習の際は体育着や学校ジャージが必要になります。

※その他持ち物は、授業の内容によって変わるため、教科連絡で確認するようにしましょう。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているか。

<思考・判断・表現>

生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているか。

<主体的に学習に取り組む態度>

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしているか。

【評価の方法】

授業態度、技能、作品、発表、プリントの記入、宿題、レポート、定期テストなどを総合的に評価します。宿題、レポート等は必ず提出しましょう。

4 年間の学習内容

	教材名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	- 技術を探る - 材料と加工の技術を探る - 材料加工を利用した作品の設計、製作①	- 生活や産業の中で技術の果たしている役割について学ぶ - 生活や社会を支える技術 - 技術の進展と生活、産業、環境 - 身の回りの製品の工夫と技術の進歩 - 学習の進め方と作業の安全 - 材料の種類と特徴 - 材料と環境との関わり - 身近な製品の材料の製造技術と加工技術 - 材料及び加工の特性 - 身近な生活における問題 - 設計の進め方 - 機能、構造、材料 - 加工、接合、仕上げ方法 - 等角図、第三角法、部品図、材料取り図、工程表	3年間の技術・家庭科で学習する内容を確認し、学習に対しての目標をもつ。 - 私たちの生活や社会を支える技術について、技術の見方・考え方を働かせて関心をもち、技術が生活の向上や作業の発展に影響を及ぼしていることに気付くことができる。 - 技術の進歩について、身の回りの製品にある様々な視点や工夫について考えることができる。また、技術分野の学習とものづくりの進め方、作業の安全に関心をもつことができる。 - 身の回りにある製品等に使われている材料の種類と特徴、利用方法を知り、問題解決の方法を探ることができる。 - 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解することができる。 - 生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、解決すべき課題を設定することができる。 - 製作に必要な設計の進め方を理解し、工程の確認をすることができる。 - 課題の解決策について、条件を踏まえて構想（設計・製作）し、試行・試作等を通じて解決策を具体化することができる。 - 使用目的と使用条件に即した機能と構造を検討し、構想を製作図にすることができる。
2 学 期	材料加工を利用した作品の設計、製作②	- けがき、切断、切削、穴あけ - 部品の検査と修正、組立て、仕上げ - 作品の評価、改善及び修正 - 材料と加工の技術の振り返り	- 製作に必要なけがきをすることができる。 - 材料を切断する工具や機器の構造や仕組みを理解し、安全に製作に必要な切断や切削ができる。 - 部品の検査方法を理解し、部品の検査と修正をすることができる。 - 組立の手順と接合方法について理解し、工具や機器を適切に使用して、安全に正確に組立て、仕上げをすることができる。
3 学 期	材料と加工の技術を利用して、生活を豊かにする作品をつくろう	- 課題の解決策について、条件を踏まえて構想（設計・製作）し、試行・試作等を通じて解決策を具体化することができる。 - 構想をする。	課題を解決するために、製作品の使用目的や使用条件を明確にし、技術の見方・考え方を働かせて材料の使いやすさ及び丈夫さなどを比較・検討したうえで、課題を解決するために製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などについて考えている。

第1学年 技術・家庭科(家庭分野)の学習について

1 授業を受けるにあたって

【技術・家庭科(家庭分野)の学習の目標】

家庭分野の学習を通して、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する能力を身に付けることを目指します。

具体的には、(1)生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに技能を身に付ける (2)課題を解決する力をつける (3)よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う の3つの柱です。

2 学習方法

【授業の受け方】

- ・授業に必要なものをしっかり準備しましょう。(授業道具、課題など)
- ・チャイム着席(授業道具を机の上に置く)
※被服室や調理室では、身支度、準備を整え、チャイム着席しましょう。
- ・課題解決に向けて自分の考えをもち、工夫して解決できるようにしましょう。
- ・自分の考えを積極的に発表するとともに、友達の意見はしっかり聞きましょう。
- ・特別教室の道具を使うときには、丁寧に安全に扱しましょう。

【学習のしかた】

- ・毎時間授業プリントを配付します。重要なことはメモをとりながら工夫してまとめましょう。
- ・テスト前は、授業プリントを繰り返しやり直し、教科書もよく確認しましょう。
- ・授業で実習したことを家でやり直し、実践力を身に付けましょう。

【授業ファイルの使い方】

- ・授業で配付したプリントは、必ずファイルにとじましょう。
- ・授業プリントは定期的に点検します。自分の考えをきちんと文章でまとめましょう。

【授業にもってくるもの】

- ・教室での授業は、教科書、ファイル(授業で配付)はいつも持ってきます。
 - ・被服室の授業……裁縫セットが必要です。
 - ・調理室の授業……三角巾、エプロン、ふきん等が必要です。
- ※その他必要なものは、授業の内容によって違いますので、連絡をよく聞きましょう。

3 評価の観点と評価材料

【評価の観点】

<知識・技能>

家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な内容を理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。

<思考・判断・表現>

これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。

<主体的に学習に取り組む態度>

自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組もうとしたり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造しようとしている。

【評価の方法】

学習の足あと（授業記録カード）、授業プリントの記述内容、定期テスト、行動の観察、作品、製作計画表、実践記録表、家庭での実践レポート等の内容を総合的に評価します。

4 年間の学習内容

	単元名	主な学習内容	学習のねらい
1 学 期	- ガイダンス 自分の成長と 家族・家庭生活 - 健康・快適で 持続可能な衣 生活	- 家庭科の学習内容 - 自分の成長と家族 - 衣服と社会生活との 関わり - 日常着の活用 - 衣服の選択と手入れ 1学期期末テスト	- 小学校の学習を振り返り、3年間の見通しをもつて学習に取り組めるようにする。 - 自分と家族との関わりに関心をもち、家族関係をよりよくするためにできることを実践する。 - 衣服の役割を知り、時・場所・目的に応じた着用ができる。 - 個性を生かす着用について工夫することができる。 - 既製服を選ぶときに必要な情報を収集整理できる。 - 取扱い表示を理解し、衣服の材料や汚れに応じた洗濯ができる。
2 学 期	健康・快適で 持続可能な衣 生活	- 衣服の補修 - 生活を豊かにするための布を用いた製作 - 実技テスト 2学期期末テスト	- 補修の技能の一つとして、まつり縫いができる。 - 製作する物に適した材料や縫い方について理解することができる。 - ミシン等の用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。 - 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫することができる。
3 学 期	- 快適・安全で 持続可能な住 生活 - 自立した消費者となるために	- 住居の機能と安全な住まい方 - 安全で快適な室内環境 - 金銭の管理と購入 - 消費者の権利と責任 - 学年末テスト	- 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解することができる。 - 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解することができる。 - 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫することができる。 - 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 - 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫することができる。 - 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解できる。 - 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫することができる。

第1学年 G・S 科の学習について

1 授業を受けるにあたって

【G・S 科の学習の目標】

- 目的や場面、相手のことを考え、主体的にコミュニケーションを図ることができる。
- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
- 目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で簡単な情報を理解したり、伝えたりすることができる。

2 学習方法

【授業の受け方】G・S では気持ち大切です。次の気持ちを特に大切に活動しましょう！

- ① 時間を大切に使う（授業前の準備、活動に集中する、時間内に完成させるなど）
- ② 誰とでも協力して活動を行う（G・S はコミュニケーションの授業）
- ③ おもいやりを持って活動する（ルールやマナーを守る）アイコンタクト、あいさつ、スマイルなど
- ④ 関心を持って、世界を広げる（掘り下げる）

【授業に持ってくるもの】

○5点セット（教科書、英語のノート、ファイル、ワーク、英単 Go）＋その他指示があったもの

【学習するときのポイント】

- ① 英語を使ってしたいことをイメージする（これが1番大事！）
言語の学習では、目的（モチベーション）が大切です。その言語を使ってどんなことをできるようになりたいのか、ぜひイメージして勉強をしましょう！
- ② 英語の発音の仕方を理解して、練習する（英語耳をつくろう！）
言語の学習の成功のポイントは、発音と文字の一致です。特に文字の発音の仕方をよく理解することは、上達の近道です。たくさん練習をして、音を覚えましょう。
- ③ 語彙力（発音・意味・スペル）をつける（テスト形式でやるとよい）
言語の学習の基礎基本は語彙力です。たくさんの言葉を知っていれば、理解できることが増えます。使える言葉やフレーズが増えれば、伝えられることも増えます。毎日こつこつ言葉を使って覚えましょう。
- ④ とにかくたくさん英語を話そう！（語学の上達はトライ＆エラーの数で決まる！）
英語上達の秘訣はズバリ、たくさん聴いて、たくさん話して、たくさん読んで、たくさん書くことです。英語なんだから間違えて当たり前です。間違えたことが上達につながります。たくさん英語を使いましょう！
- ⑤ 好奇心を大切に！【気になったことはどんどん調べよう 辞書、ネット、先生、家族、友達から】
気になったことは、好きになる入口です（きになる→好きになる）。好きなことが増えると楽しみが増えます。人生が楽しくなってきます。なので、気になったら調べましょう！今はネットがあるので便利ですね。
- ⑥ 日本語と英語は”ちがう”ということを知る
日本語と英語はちがいます。人がそれぞれちがうのと一緒に、ちがうところがたくさんあります。だから戸惑ったり、ストレスを感じることもあると思います。しかし、ちがうから良いのです。ちがう見方や考え方ができるようになります。ちがうから面白いんです。ちがうとわかっていれば、理解しようと思えます。それが勉強の始まりです。
英語は私たち日本語で物事を考えてる人たちにとって、とても新鮮で、新しい景色を見せてくれる言語です。英語はあなたの人生を豊かにしてくれます。Learning English will make your life better.

3 評価の観点と評価材料

評価の観点	評価方法
【知識・技能】 • 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 • 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	• ペーパーテスト • パフォーマンステスト • 授業で出される writing 課題 • リスニング

【思考・判断・表現】 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに 応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国 語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活 用して表現したり伝え合ったりしている。	・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・授業で課される writing 課題 ・グループでの話し合い
【主体的に学習に取り組む態度】 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き 手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的 にコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業への取組状況 コミュニケーション活動への取組みなど 課題への取組状況など ・パフォーマンステスト

4、年間の学習内容

	単元名	主な学習内容		単元名	主な学習内容
1 学 期	Get Ready Program0 Program1 Program2 Program3 Our Project 1	授業の約束、自己紹介 アルファベット be 動詞 / Where ～? 一般動詞 / When ～? Can / What ～? 自己紹介スピーチ	2 学 期	Program4 Program5 Program6	This / That / Who～? 三単現の(e)s 人称代名詞 / Why～? Because～.
2 学 期	Program7 Our Project 2	There is[are]～. / How～?	3 学 期	Program8 Program9 Program10 Our Project 3	現在進行形 一般動詞の過去形 be 動詞の過去形、過去進行 形 写真や絵の紹介

※Program と Program の間に設定されている Word web や Power-up、Steps は基本、Program の前
後で行います。

第1学年のコミュニケーション学習の到達目標(CAN-DO リスト)

聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
① 日常の身近な事 柄などについての話 を理解することがで ける。 ② アナウンスなど を聞いて、自分に必 要な情報を聞き取る ことができる。	① 日常生活で使わ れる簡単な文を理解 することができる。 ② 自分の興味のある トピックに関する 文章を、イラストや 写真等も参考にしな がらあらすじや大切 な部分を読み取るこ とができる。	① 家族、日課、趣 味など身近なトピック について、質問し たり、質問に答えたり することができる。 ② 買い物などの場 面でやりとりをする ことができる。	① 自分のことにつ いて(名前、年齢、 好みなど)伝えるこ とができる。 ② 自分の考えや気 持ちなどが聞き手に 正しく伝わるよう に、話すことができ る。	① 自分のことにつ いて、基本的な情報を書 くことができる。 ② 友達や家族を紹介 するなど、身近なこ とをまとめよく書くこ とができる。 ③ 自分の趣味や好き 嫌いなどについて、理 由を添えて書くことが できる。